



「風のまち稚内の象徴はこの風車である」という印象を、私たちに強く焼き付けてくれました。

□サロベツ原生花園

ここは、植物の死骸などが何百年も積み重なってできた湿地です。一年に1mmしか成長しないらしいので、その貴重さは私でも分かります。はじめ、この辺り一帯が国立公園だというお話をうかがったとき、自然管理と生活を営むこと、どちらを優先すればいいのか考え込んでしまいました。食べなければ人間は生きてゆけません。つまり、生活するためには自然を削らなければならないのです。しかし、そうすれば湿地は失われていき、大地は乾燥してゆきます。現に、乾燥地に生えるという笹が茂っているゾーンもありました。人間と自然の共生は難問ですが、いずれは解決しなくてはいけないことです。今から、少しずつでも自然を氣にかけていくことで、完全な自然破壊に至るまでの猶予時間は延びるのではないかと思います。

□農業体験

悠遊ファームでは、野菜の袋詰めやミニトマトの収穫などをお手伝いさせていただきました。ここは農業を使わないか、できる限り減らして野菜を栽培しているらしいですが、どの野菜も大きくて色が鮮やかでした。特にミニトマトのビニールハウスでは、普通のサイズのトマトく



らいの大きさのものもあって、驚きつとも楽しく収穫することができました。

悠遊ファームは、泊り込みで農作業ができる施設です。施設はペンションやコテージ風で、お風呂はまだ建設中でしたが、ロシア式サウナや五右衛門風呂ができるそうです。避暑を兼ねて本州から農作業をお手伝いに来るというのも、エアコンに頼らないという点ではエコにつながっています。エコはそんなに難しいことではなく、身近なところからできるものなのだと思います。

□最後に。。。

私の実家は山形県長井市で、日本で財政ワースト四の市です。長井市に比べると、稚内はまだ夢も希望もあります。長井市には、稚内のような風は吹きませんし、広大な土地もないのです。つまり、風力発電や太陽光発電は、稚内という土地だからこそできることなのです。稚内の皆さんには、この土地性を大事にして、日本で最先端の新エネルギー開発の市として、稚内を発展させていってもらいたいです。私も、これからは地元の街づくりには積極的に参加していきたいと思い

ます。

今回、街の一大プロジェクトに参加させていただいて、本当に良い経験になりました。稚内はこれまでに行ったことがないところだったので大変不安でしたが、皆さんがとても良い方たちばかりでしたので、何事もなく、無事に研修を済ませることができました。私たち五人は、稚内が大好きです！時間ができたら、また稚内を訪れたいと思います。今回お世話になった稚内の皆さん、本当にありがとうございました。（上山恭生、神田智子、諏訪尚子、谷澤明音、向田絵梨子）

↓最後に素敵な景色を目の前にレポート書き
左より諏訪、神田、谷澤、向田、上山

